

## IAUD Newsletter Vol.5 第1号 (2012年4月号) 目次

- 1.特集：小島理事長から新年度のメッセージ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2.IAUD 2012 年度活動方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

Newsletter の発刊は 5 年目を迎えました。

今後は、皆様のニーズを取り入れた適切な連載や特集、また IAUD と活動を連携していく省庁や市町村、大学、海外 UD 団体などを取り入れた内容を組む予定であります。

更なる内容の充実化のために、お読みになったの率直な御感想や御意見をお寄せください。

皆様のより一層の御支援、御指導を賜りますよう、よろしく願いいたします。

2012年4月 情報交流センター所長 西村澄夫

### 1. 特集:小島理事長から新年度のメッセージ

今年度最初の巻頭特集では、就任して 1 年が経過した小島文代理事長に、昨年度の感想と今年度の抱負や IAUD に期待することをお聞きしました。

(聞き手：西村澄夫副理事長／情報交流センター所長)



#### 昨年度を振り返って

西村:まずはこの 1 年の率直な感想をお聞かせください。

小島:IAUD は基本運営がよくできているなと思いました。川原専務理事と川原事務局長は非常に具体的な行動を自発的に行っています。また、各理事もお忙しい中、それぞれの意見をお持ちで積極的に参加されている。それがうまく組み合わさって、この会が組織的に運営できていると実感しました。

一方、UD は言葉としては定着しており、IAUD の活動はどなたでもわかるものになっていますが、ここから先をどう進めていくかが課題だと思います。

例えば、研究部会の活動では、「UD とは何か」という何もわからない状態はクリアしているので、これからはある領域を決めて深掘りしていくか、もしくは基準はできているから研究よりも行動や活動としての領域を広げていくか。どちらの方向をどの程度進めていくか、そこをディスカッションしていく必要があると思います。

西村：IAUDとしてUD社会を、音頭をとりながら活動していかないといけないと思います。

小島：特に、企業や国という大きな単位と（IAUDと）の関わりは密に行われているけれども、個人や小さなグループの会員は、受け身に参加している方が多い。そういう方々が欲しい情報や、もっと積極的になれるような活動が見えていない。せっかく同じ組織にいる仲間なので、その方々が必要に感じていることを改めてつかむ必要があると思います。



## 研究部会は相互連携が必要

西村：研究部会の活動への期待度が大きいですが、これまでの活動や成果に対して、具体的な意見はありますか。

小島：枠組はきちんとできているが、その枠があるがゆえに研究WG相互のコミュニケーションが取れていない。また今年度は同じ切り口でやっていこうとかいった、1年単位での共通した目標がないために、WG単位での活動となり、主査の裁量にかかっているのが事実だと思います。もう少しIAUD全体としての方向を部会長や各担当理事・各主査と決めて、それをそれぞれの領域の中で展開していくといい。

西村：自由度や自主的な活動を期待するために、主査の権限に任せているところがあります。

小島：そうですね。それも一つの考え方ですが、部会長である担当理事のサポートの内容をよく考える必要があります。三役と担当理事、そこに主査が加わって、今年度は何をやっていくのかを確認するような、相互のコミュニケーションを図る必要があると思います。

西村：各主査や副主査が集まって討論会や合宿などをして、全体の回答を決め、それに対し三役や理事が入り込んで対策をとるのがいいのでは。

以前、1回だけ研究部会だけの報告会をやったことがあります。各PJが具体的に詳しく活動内容を説明して、質疑応答もたくさんあり、研究部会の一体感を感じました。

小島：成果報告会というよりも、ディスカッションができる場がほしい。各部会に対して、他の部会が意見を求めるような場がいい。国際会議のレベルでも各国の方々の関心を呼べると思います。

西村：横の連携が取れていないから、他のPJが何をやっているのかわからない。絶対に共通点があるはずなのに。そのあたりをいい方向にもっていきたいですね。



## 研究成果への受け皿が必要

小島：また、ある領域を深掘りするのであれば、その専門の方々と共同研究するのもいい。

西村：自分たちで研究した成果をどこにもっていけばいいのか、という問題もあります。部員たちだけでは省庁などに持っていきづらい。でも、事務局にお願いすると、今度は事務局の負担になってしまう。

ここまでやったらどういう風に訴求していくのか、という仕組みを作っていないと、張り合いがないのでは。どこかに手を貸してあげて、あるいは研究部会全体でできるような仕組みを作っていきたい。

小島：あるいは成果を国の研究機関や規格協会などにつなぐとか。成果報告会は今は会員限定だが、結果に対しては、それなりの受け皿になるような方々、各省庁や研究所の人を呼ぶのがいいのでは。

西村：成果報告会のイメージがみんな違い、まだ会員だけにしたほうがいいという意見もあります。公益性と会員の特権をどう両立したらいいか、検討する必要があります。

## 会員へのアンケート実施

西村：情報交流センターで、今後は会員も含めて生活者の声を聴いていくような仕組みを作る必要があります。アンケートを実施するにあたり、何かアイデアがありますか。

小島：期待しているのは何か、不足していることは何かを聞き、参加者の意識が持てるアンケートがいい。そして、その結果をきちんと公開する。具体的施策を打つ前に、課題をみなさんに見えるようオープンにしていく。多くの方々の満足が得られるとうれしいですね。

西村：(答える側は) 急にアンケートを提出するのは抵抗あるので、(答える側に) プレッシャーがないようにしたい。

小島：年に1回、定期的に会員の皆様にアンケートをすればいいのでは。ただ、必ずフィードバックとして集計結果を出すようにする。(アンケートは) やったほうが、透明性があると思います。

西村：わかりました。ぜひ今年度は情報交流センターで実施します。

## 地方自治体に期待

西村：IAUD全体の会員構成に関し、バランス等についてご意見をお聞かせください。

小島：もう少し、国や地方自治体に入っていただきたい。今は施策が地方自治体に移行

していているので、国と個人をつなぐ IAUD としてだけではなく、地方自治体と個人をつなぐ IAUD としても活動したい。しかし、現状では地方自治体は、それほど具体的に参加していないのが現状。もう少し全国ネットで参加してほしいですね。

西村：地方自治体や個人会員は、（会合に参加する）距離感が足枷になっているのが実態です。

小島：そこはネット会議。また、研究部会と地方自治体と共同でプロジェクトをやっていくのも手。まず会員になっていただいて、同じ目線で共同研究をしていけば、その後は協同事業として進めていけるでしょう。

## 事業化をすぐに実行へ

西村：運営資金に関してはどうお考えですか。収入が目減りする方向なのですが。

小島：まずは事業化です。UD のノウハウを、みなさんに還元していくということ。UD 検定事業や協同事業にしても、個人の知識レベルやスキルがあがるなどメリットにつながるような事業をもう実行していかなければ。

そして、実施できたことをきちんと会員にフィードバックして、意見を伺いながら展開していくことが大事。身近な例えですが、UD 検定では UD の知識を得られるだけでなく、受験費用を会員には安くするとか、具体的な配慮をしていく。

西村：ほかにも、専門教育研修に参加したら、修了証を発行するとか。

小島：そうですね。また、私たちの活動の中でも、「こどものUD」は非常に象徴的。お年寄りに対する接し方など、昔は家庭生活の中で自然に教わってきたこと、道徳として家庭や学校が教えてきたことを、これからは受託でIAUDが伝えていく。学校や家庭でも教えきれないことを、IAUDが実感としてわかるようにしていくといいでしょう。

西村：それを実行していく組織体制が問題ですが。

小島：将来的にはIAUDに参加している方々を個別に講師と呼ぶのがいい。例えば、(会員企業で)UDのノウハウをもっている方が退職した後、そのままテンポラリーにでもIAUDに講師にきてもらう。

そして、UDの知識があり、判断力を持った人たちの集まるUDバンキングのようなものにしていきたいですね。これは日本の財産ですよ。(了)

---

## 2. IAUD 2012年度活動方針

3月13日に理事会、28日には評議員会が開催され、2012年度の活動方針が固まりましたので、皆さまに概要をお伝えします。



## <2012年度活動方針>

- ・UD 製品・サービスにとどまらず、各業界の垣根を超えた社会システム・UD 基盤構築に向けた研究、普及活動に取り組み、その成果を基に国や自治体への具体的な提案と協働を行なう。
- ・生活者への情報提供を継続して実施すると共に、生活者の声の収集・活用を図るための仕組み作りを行なう。

## <強化・重点事業>

### 1. 情報交流センターの活用強化

情報交流センター、及びサロンの有効活用に努め、さらに UD 情報受発信機能の強化、会内外の活動交流の円滑化を図る。

また、研究部会や各委員会活動から生じた成果物の出版、各種イベントの実施等、IAUD の専門性、及び認知度の向上に努め、UD のグローバルな普及発展に貢献する。

### 2. 三事業委員会の活用強化

ワークショップ委員会、協同事業検討委員会、検定委員会の積極的な運営を通して、ワークショップ事業の効果的な実施、及び省庁・自治体等との連携による地域計画、人材育成等の協同事業の検討、そして UD 検定事業の実施を図りつつ、安定した事業収入の確保に努める。

### 3. 「第4回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2012 in 福岡」の実施

「第4回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2012 in 福岡」の開催へ向け、組織委員会を設立する。実行委員会は昨年度に引き続き、計画策定、その他必要な準備作業を行なう。

### 4. 公益法人化の推進

公益法人化の実現へ向け、運営体制を強化・整備し、昨年度より作成を進めている定款にて一般財団法人への登記を行なう。  
一般財団法人移行後、速やかに公益認定において必要な書類の作成・承認等の手続きを行ない、公益財団法人への移行を推進する。

## <事業内容>

### 1. 研究部会

ユーザー（生活者）につながる活動として、研究部会の活動テーマ・サービスの実現化（商品化／事業化／出版等）を推進。その成果を本年の国際会議で広く発信し、豊かな UD 社会の発展に貢献する。

#### (1) 住空間プロジェクト

誰もが心豊かに暮らせる「楽しい UD」を実現する住空間づくりを目指す。

①楽しい UD、UD プラスの研究

身体的、精神的に適正な負荷（刺激）を与えることで、機能低下を防ぎ向上させるといった新たな UD のあり方を、事例研究や環境と心身機能との関係性の研究を行い、キーワードや仮説軸を導き出す。

#### ②UD 先進事例の視察研究

住空間、各種施設などの先進事例調査を継続して、UD 視点における分析・考察を行ない、会員への情報発信を推進する。

#### ③具体的生活行為から見た UD ワークショップの推進

様々な身体的状況のユーザーが生活している事例を観察・収集し、ユーザーニーズと住空間との対応を整理する。その際、ユーザーの感情や行為にも注目する。

### (2) 移動空間プロジェクト

本年の国際会議における研究成果発表に向けて、移動に関わる新たなシームレス社会のあり方を提案する。具体的な事例から問題提起ならびにアイデア検討を行ない、自治体、交通事業者等への提言活動を行なう。

①公共空間のシーム(つなぎ目)に着目した、「公園入りロゲート」のアイデア検討を継続。人及び車椅子と自転車、バイクとの共存における安全性について提言を行なう。

②「新移動空間ワーキング」として UD 先進事例調査、有識者との意見交換会を実施。移動に関わるシームレス社会の新たな可能性を考察する。

③IAUD ウェブサイトに調査結果を公開しパブリックコメントを吸い上げ、多くの人に活用してもらえ「調査手法、改善手法の発信」を行なう。

### (3) 労働環境プロジェクト

様々な特性のあるたくさんの方が快適に働くことのできる未来オフィスの労働環境を提供することを目的とし、各省及び多様な企業で推進されているテレワークについて UD 及び利用者中心の視点で検討を行ない、ダイバーシティを推進するユニバーサルなテレワークスタイルを発信する。

①テレワーク利用者への WEB 調査による実態把握、インタビューによる定性調査を行い共通課題把握と解決提案を行なう。

②社団法人日本テレワーク協会様や各機関、先端事例等との情報交換を行う。有識者及び利用者によるワークショップ形式で新たな働き方の方向性を検証する。

③報告書資料の作成を行い、IAUD HP での公開、テレワーク白書 2012、テレワーク導入各省ガイドラインへの掲載等を検討する。

### (4) 余暇の UD プロジェクト

#### ① CM 字幕の普及へ向けた活動

積極的に CM 字幕を推進する企業との情報交換を実施。製作された CM の評価、生活者の意見収集に協力し、IAUD 会員企業への働きかけを行なう。

#### ② 交流会の UD

「旅」に主眼を置いた新テーマに着手。予約や移動、宿泊に関する不満点を洗い出し、配慮やマニュアルの変更で対応可能なアイデアを検討する。また、ネット情報の活用方法をまとめた冊子を作成し、「旅」をためらっていた方にも使っていただくことでさらなる課題を抽出していく。

### (5) 衣の UD プロジェクト

ファッションブルで、誰もがが着やすく、そして多くの人に必要とされる服を追求して

いく。

- ① UD ジャケットの更なる研究、及びバージョンアップ。製品化に向けての企業探しを続けていく。
- ② 災害時の UD 衣料とは何か？真に役立つ衣服について研究を進める。
- ③ 衣の UD の理解向上のために、わかりやすい冊子を作成する。福岡国際会議で配布を目指す。

## (6) 食の UD プロジェクト

「食」を取り巻く環境をUD視点で見つめ直し、生活者により快適な「食生活」を提供するための活動を行なっている。

- ① 「やけど注意」表示ピクトグラム普及推進  
「やけど注意」2種、「蒸気注意」1種のピクトグラムが完成し、IAUD HPでデータをダウンロードできるようになっている。現在食品包装や印刷媒体で採用いただいでおり、今後も広めていくと同時に、JIS化に向けたアプローチを行なう。
- ② 第5弾ウェブ調査実施  
2008年から毎年継続実施してきた生活者調査として、今年度も実施予定。
- ③ 新テーマの検討  
今年度は、これまでのパッケージ関連とは少し離れたテーマを模索して取り組んでいく。

## (7) メディアの UD プロジェクト

メディアにおけるUD課題の中で、カラーUDに引き続き焦点を当てる。

また分科会の拡張を図り、色以外のメディアの課題発見と考察に取り組む。

- ①カラーUD配色イメージ・スケールは、スケールの精緻化を推進し事例を福岡国際会議で発表、啓発を図る。
- ②カラーUDグラデーションは、東日本大震災時にメディアで発信されたハザード表示について検証し、多色使用における情報表示のあるべき姿の提言を行なう。
- ③カラーUDの標準化推進。共通新テーマ設定に向けて学術機関とも連携し、UDフィールド調査を実施。

## (8) 標準化研究ワーキンググループ

UDの実現とその啓発に役立つ情報を、国内外の多様な産業界から収集・展開する。

- ①研究部会の各PJ活動成果のUDマトリクスへの織込み検討
- ②UDマトリクス事例集コンテンツの改善・改訂
- ③新たな標準化項目の検討
- ④IT用語の手話化を検討するサブWG活動の立上げ

## 2.情報交流センター

### (1) グローバルな情報発信、情報収集の強化

- ①研究部会・各委員会との連携強化、センター内の体制づくりを進め、国内外に向けたサイトやNewsletterの定期的なコンテンツ更新により充実を図る。
- ②国際会議や活動成果等を中心に世界に向けた情報発信と国際連携を通して情報収集を活発化する。

### (2) 部会活動活性化

- ①研究部会・各委員会と連携し、公開セミナーや見学会等の交流イベントを企画し実施する。
- ②研究部会・各委員会と連携し、出版物の作成等の普及啓発に関わる活動を支援する。
- (3) 会員サポート強化
  - ①研究部会・各委員会の活動成果掲載、国内外UD情報の提供など継続して実施する。
  - ②公開セミナーや見学会等の交流イベントを紹介し、情報交流を推進する。
  - ③会員の声を聴く仕組みづくりから反映できる流れを構築し、会員の満足度を向上させる。
  - ④IAUDの活動・成果を効果的にお知らせできるよう、また会員が有効活用できるようサロン等の改善見直しを図る。

### 3. ワークショップ委員会

「第4回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2012 in 福岡」で、地元大学や自治体と連携し、特別ワークショップ「48時間デザインマラソン」を実施する。テーマは、国際会議のテーマや地元のUDの普及につながるものを検討する。韓国などアジア圏の学生やデザイナーにも参加を働きかける。ワークショップ運営機能を理事企業に広く普及するために、運営メンバーの増員を行なう。

### 4. 協同事業検討委員会

- (1) 省庁・自治体等と連携し、地域計画、人材育成等の協同事業をUDの観点から検討、実施する。
  - ①IAUDアワード2012
    - 昨年度に引き続き、IAUDアワード2012事業の企画運営を行なう。
    - 国内外のUD専門家に審査委員を委嘱し、アワード審査委員会を構成する。
    - 第1次及び第2次の厳正な審査を経て、各賞（各省庁に大臣賞の認定を依頼）を決定し、第4回国際UD会議2012の場で表彰する。
  - ②福岡アイランドシティUDプロジェクト（仮称）
    - 第4回国際UD会議2012の開催を契機に福岡市より協同プロジェクトの提案を受けているが、今年度は、まず福岡市博多湾の埋め立て地「アイランドシティ」にある照葉小中学校生徒を対象にUDワークショップを実施する。
    - アイランドシティUD街区におけるマスタープランづくりへのパイロット事業として位置づける。
- (2) 「多様性の包摂」、「持続可能な共生社会」等、単独企業では困難なテーマにおける商品開発、及び仕組みづくりの可能性を検討する。
  - ①人工喉頭UDプロジェクト
    - 総裁の寛仁親王殿下が使用されている人工喉頭の改良型にあたる口腔内振動子方式人工喉頭\*（小型スピーカーを口腔内上蓋に装着）の開発・製品化の支援を行なう。

\* 東京大学先端科学技術センター高橋講師を中心とした研究に基づくもので、機器本体が上着ポケット内に収納され、両手がフリーとなることから、よりUDの考えに沿った解決策となり、国内外の多くの潜在的ユーザーの利用が想定されている。



## 5. 検定委員会

### (1) UD検定事業

検定TF（タスクフォース）と協議しつつ、省庁、自治体等との連携や、テキスト、講習、作問、検定、採点等及び運営体制を検討する。方向性決定後、事業化構想、提案等を推進し、新体制組織化のための調整等を経て、活動を開始する。

## 6. 法務知財委員会

### (1) 法務関連事業

①法人化のための体制整備の推進と法人化 TF の支援を行なう。IAUD の中期計画との整合性をとりながら会員が活動しやすい体制、規定、規則などの整備を目指す。公益財団法人化を目指したフレームづくりで TF を支援し、弁護士、公認会計士などと相談、評議員会の審議を経ながら、法人化および公益認定を推進する。

②運営上に関わる法務関連事項について相談窓口となり、検討する。

### (2) 知財検討事業

IAUD の活動から考案される成果の知財権について、各事業や体制整備と進捗を合わせながら検討する。

①対外的行事（ワークショップ、国際会議など）の知財側面からの事前検討を行なう。

②成果の権利化に向けて、要請があれば窓口として、都度、研究部会、各委員会を支援する。

③法人化の体制整備に伴い発生する知財権、商標権確保等に関わる取り決めの再検討を行なう。

## 7. 運営企画会議

IAUD運営上の課題抽出、及び諸問題の解決策策定を円滑に行ない、理事会へ答申するため、運営企画会議を設置する。運営企画会議の構成メンバーは、理事長、副理事長、専務理事、研究部会長、情報交流センター所長、同副所長、ワークショップ委員長、協同事業検討委員長、検定委員長、法務知財委員長、事務局長とする。

運営企画会議内に、法人化 TF、及び検定 TF を置く。

## 8. 国際会議組織委員会および実行委員会

「第4回国際ユニヴァーサルデザイン会議2012」開催に向け、組織委員会を設立する。昨年度設立した実行委員会は、引き続き実施計画策定ほか必要な準備作業を行なう。  
(以上)

---

次号は4月下旬発行予定

特集：2011年度IAUD成果報告会&国際会議プレイヴェント開催詳細報告他(予定)

無断転載禁止

IAUD 情報交流センター (IAUD サロン) :  
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階  
電話 : 03-5541-5846 FAX : 03-5541-5847 e-mail : [salon@iaud.net](mailto:salon@iaud.net)